

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
105 - 29	中学校	数学	数学	3
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教 科 書 名		
11 学図	数学 011-92	中学校数学 3		

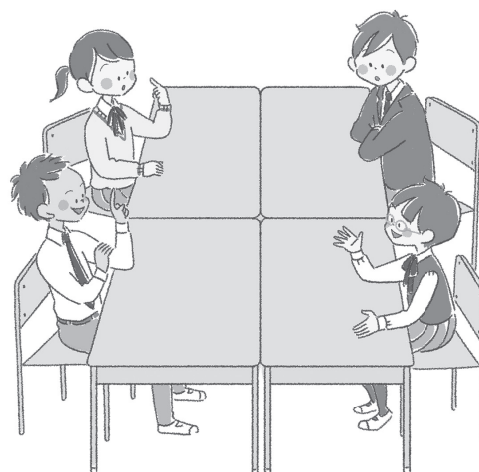
1 編集の基本方針

つながる学びで未来を拓く～子どもたちの未来を見つめて～

これからの子どもたちには、どのような未来が待っているのでしょうか。予測が困難な未来を生きる子どもたちのために、できることはどんなことでしょうか。

この教科書は、未来を切り開いていく子どもたちが必要な資質・能力を身につけることを目指しています。

子どもたちの未来を見つめて、問題に立ち向かい、解決するために必要な資質・能力が育成されるよう、さまざまな工夫をこらして編集しました。



特色 | みつける

身のまわりや、数学の学習の中から、問題を自らの力で「みつける」ところから、学びがはじまります。学びのはじまりは、生活の中や数学の学びの中など、至るところに潜んでおり、それらを見つけないがら学習を進めることができるようにすることで、真理を求める態度を養い、自主及び自律の精神を養うことができるよう配慮しました。

特色 2 つながる

数学だけでなく、学びにはさまざまな「つながり」が大切になってきます。学びの中のつながりはもちろんのこと、人とのつながりに関して話し合いや他者の意見を取り入れて、さらに自らの考えを発展させるなど、自他の協力を重んじながら、自らの能力を伸ばすことができるよう配慮しました。

特色 3 いかす・ひろがる

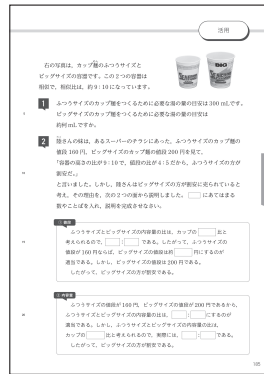
数学の世界は、子どもたちの身のまわりの至るところに潜んでいます。社会の中の数学、自然の中の数学、日本の中、世界の中へと、自分たちが身につけた知識がいかせることを実感できるような題材を取り扱うことで、数学の世界がひろがっていく様子を子どもたちが実感できるよう配慮しました。

特色 3 いかす・ひろがる

日常生活や社会にいかす

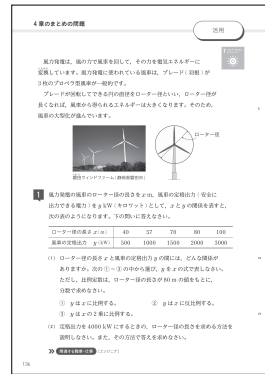
学習したことをさまざまな場面で活用できるようにしました。

①「章のまとめの問題」に「活用」を設定し、活用問題に取り組むことができるようにしました。全国学力・学習状況調査の「活用する力」に対応した課題に取り組むことができ、さまざまな活用問題に取り組むことで、実践力を向上させるとともに、日常生活に関する問題や、環境に関する問題の解決に活かせるような課題を取り上げました。



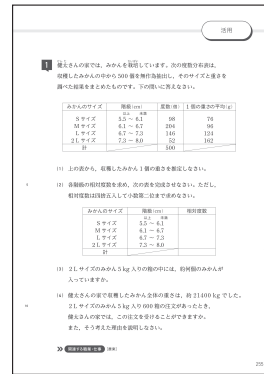
→ p.185

日常生活に活かす



→ p.136

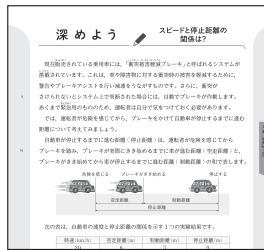
環境問題に活かす



→ p.255

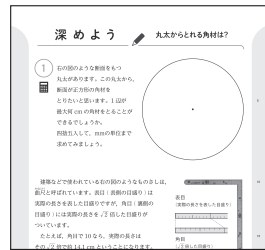
統計問題に活かす

②章末の「深めよう」では、章で学習した内容を活かし、さらに深めたり広げたりすることができるようになりました。ここでは、上位学年の内容に触れる課題も扱っており、学習した内容を活かして解決していくことができるようにしました。



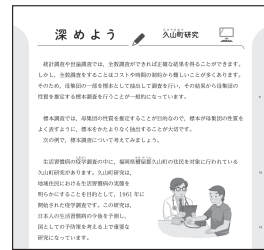
→ p.137

日常生活に活かす



→ p.72

職業に活かす



→ p.258

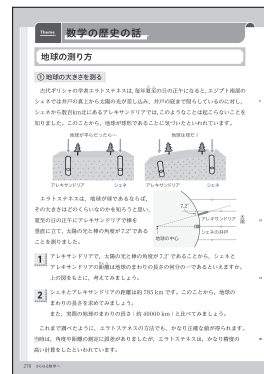
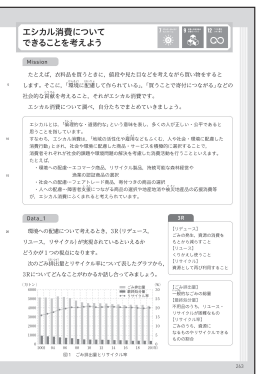
統計問題に活かす

③巻末の「さらなる数学へ」では、1年間で学習した内容を活かし、SDGsに関連した課題について自分たちに何ができるかを考察したり、興味深い課題を取り上げ解決したりすることができるようにしました。



→ p.262 ~ 263

SDGsに活かす



→ p.278

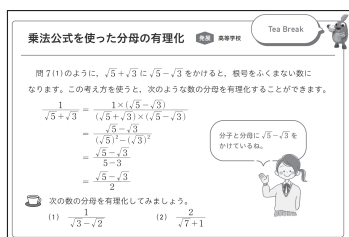
数学史に活かす

数学の世界がひろがる

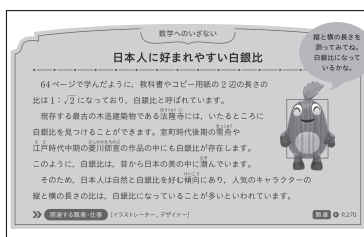
学習を進めていく中で、生徒はいろいろな疑問を発見します。その疑問をもとに、学習を統合・発展させていくことになります。その中には、上位学年で扱う内容も含まれています。その疑問について、発展として「Tea Break」で解説し、興味・関心をもって取り組めるようにしました。

章末の「数学へのいざない」では、章の内容を深めたり広げたりする

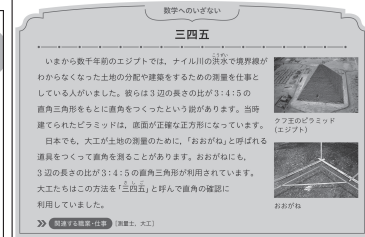
興味深い事象を提示し、数学のおもしろさを実感できるようにしました。



→ p.62



→ p.68



→ p.235

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
全章	<ul style="list-style-type: none"> 男女生徒の名前はすべて「さん」づけとしました。(第3号) 自分の考えを説明したり、話し合ったりする活動を取り入れました。(第2号) 学習中に抱く生徒の問いを取り上げ、解決していこうとする姿勢を養うようにしました。(第1号) 	全般 34～35ページ他 221ページ
1章 式の計算	<ul style="list-style-type: none"> 因数分解に関連して、店の売上の考え方について取り上げました。(第2号) 書籍がどのようにつくられているかについて知ることができる課題を取り上げました。(第2号) 	38ページ 41ページ
2章 平方根	<ul style="list-style-type: none"> 普段使われているA判、B判とよばれる紙の縦横比が$1:\sqrt{2}$であることを取り上げ、身近にある平方根について考察できるようにしました。(第1, 2号) 昔から建築などで使用されている曲尺について取り上げ、道具の中に隠された昔の人の知恵に触れることができるようにしました。(第2, 5号) 	63～64ページ 72ページ
3章 2次方程式	<ul style="list-style-type: none"> クリーンエネルギーである太陽光発電を題材として取り上げ、地球温暖化の問題を考える際の基礎を培うことができるようにしました。(第4号) 	74～75ページ
4章 関数 $y=ax^2$	<ul style="list-style-type: none"> クリーンエネルギーである風力発電に関連し、再生可能エネルギーを利用した教材を取り上げました。(第2, 4号) 車のスピードと停止距離の関係について取り上げることで、交通安全や身のまわりの危険に対する意識を育むことができるようにしました。(第3号) 	136ページ 137～139ページ
5章 相似な図形	<ul style="list-style-type: none"> デッサンをするとき、相似の位置を利用して正確な絵が描けることを紹介し、美術科との関連に触れることができるようにしました。(第2号) 相似な立体の体積比に関連して、カップ麺のサイズと値段の問題を考察する課題を取り上げました。(第2号) 	182ページ 185ページ
6章 円	<ul style="list-style-type: none"> 円周角の証明をする場面で、自分の考えを説明したり、他者の考えを参考にしたりする話し合って説明する力を育てる活動を入れました。(第2号) 	191～192ページ
7章 三平方の定理	<ul style="list-style-type: none"> フェルマーの最終定理についての話題を取り上げることで、数学に対する興味・関心を抱くことができるようにしました。(第1, 5号) 三平方の定理を利用して目標物までの距離を測る機器に関する課題を取り上げました。(第2号) 	229ページ 238ページ
8章 標本調査	<ul style="list-style-type: none"> 視聴率を調べる際に、標本調査の考えが利用されていることを扱う課題を取り上げました。(第3号) 	243ページ
さらなる数学へ	<ul style="list-style-type: none"> SDGsに関連して、エシカル消費について取り上げ、社会において自分たちに何ができるかを考察することができるようにしました。(第2, 3, 4, 5号) 表現する力を身につけるためのレポート活動を取り上げ、レポート発表における発表する者とそれを聞く者の注意点を示しました。(第1, 2, 3号) 伊能忠敬と彼がつくった地図を取り上げました。(第5号) 	262～265ページ 266～269ページ 280ページ
□絵	<ul style="list-style-type: none"> 数学を役立てている職業の人のコラムを掲載することで、数学が生活に生きていることを実感し、主体的に社会の形成に参画しようとする態度を養うことができるようにしました。(第2, 3号) 	裏見返し

○ユニバーサルデザインへの配慮

- 全面的にUDフォントを使用することで、これまで以上に読みやすく、すべての生徒が理解しやすい文字になるように配慮しました。
- 文章を分節改行にすることで、誰もが読み取りやすく、問題解決をすることや、それらを考察することに重点をおけるように配慮しました。
- カラーユニバーサルの観点を取り入れ、目に優しく判別のしやすい色使いをすることで、見やすく使いやすい紙面づくりに配慮しました。

○人権への配慮

- キャラクターや活動の場面などで、男女や特定のキャラクターに偏らないように配慮しました。

○ICT活用への配慮

- タブレットなどのICT機器を利用した活動を行うことができる箇所には「二次元コード」を付すことにより、デジタルコンテンツ等があることを視覚的に容易に判別できるように配慮しました。また、それぞれのデジタルコンテンツがどのような内容なのかがわかるような言葉を示し、使いやすさにも配慮しました。

○生活や日本の伝統文化への配慮

- 生徒の視野を、地域社会、日本、世界へと広げていけるように配慮し、日本の伝統や文化を理解しようとする態度を養うことができるようにしました。

④ 確かな学力の実現

「説明する力をつけよう」では、問題の解決の方法を説明する活動を設定しました。

他者にわかりやすく、意図をきちんと伝えるには、どんなことが必要なのかを考え、生徒どうしの話し合いを通して、根拠を示しながら説明するにはどうしたらよいかを身につけることができました。また、問題が解けるだけでなく、他者にわかりやすく説明できるような確かな学力につながっていく構成としました。

時速 80 km で走っている自動車がブレーキをかけたとき、ブレーキがきき始めてから止まるまでに進む距離はどのくらいですか。

どうやって調べればいいか、ぜんぜんわからないよ。

1年と2年の比例の2年と1年の1次関数では、どうやって考えたらいい。

データから表やグラフをつくって、どんな関数になるかを考えよう。

グラフから比例や1次関数で考えると、みなすことができるね、それを式に表して考えよう。

表した式やyをxに代入して、知りたいことを求めることができました。

時速と止まるまでに進む距離の間に、どんな関係があるかを調べよう。

時速 x km で走っている自動車がブレーキをかけたとき、ブレーキがきき始めてから止まるまでに進む距離を y m とすると、 y は x の2乗に比例する関数とみなすことができます。

ある自動車が時速 40 km で走っているとき、ブレーキがきき始めてから 10 m 進んで止まりました。このとき、次の問いに答えなさい。

→ p.127

2 資質・能力を育むために

① 基礎・基本を含む知識・技能の育成

本文中の「例」では、適切な箇所にもノート形式の解答を示し、模範的な解答の書き方を示しました。ノートを書く際に気をつける点についても同時に示すことで、基礎・基本を身につけることができるようにしました。

問の中で適宜、誤答問題である「正しいかな?」を設定し、誤りやすい箇所などを明確にしたり、「QR(パトロール隊)」で、謝りやすい箇所をていねいに説明したりして、さらなる習熟が図れるようにしました。

「計算力を高めよう」、「確かめよう」では、どこで学んだ学習であることを明確にすることで、つねにふりかえって学習に立ち戻れることを示しました。

例6 $ax^2 - 2ax - 8a$ を因数分解しなさい。

まず、共通因数 a を $a(x^2 - 2x - 8)$ とくくり出し、さらに因数分解できないか考える。

共通因数 a を、 $a(x^2 - 2x - 8)$ の外にくくり出す。式の展開でも書いてみよう。

$ax^2 - 2ax - 8a = a(x^2 - 2x - 8) = a(x+2)(x-4)$

→ p.28

例7 太郎さんは、 $(5x-3)^2$ の展開を、右のように行いました。この展開は正しいですか。誤りがあれば、正しく直しなさい。

正しいかな? $(5x-3)^2 = (5x)^2 - 2 \times 3 \times 5x + 3^2 = 25x^2 - 6x + 9$

→ p.19

例8 次の数の分母を有理化しなさい。

(1) $\frac{1}{\sqrt{5}}$ (2) $\frac{\sqrt{2}}{\sqrt{7}}$ (3) $\frac{6}{\sqrt{3}}$ (4) $\frac{12}{\sqrt{45}}$

→ p.57

② 思考力・判断力・表現力等の育成

「数学的活動のページ」では、身のまわりの事象の中から問題を発見し、考察したり、性質を見いだしたりすることで、統合的・発展的に課題を解決していくことができるようにしました。

また、「説明する力をつけよう」では、生徒どうしの話し合いの中で、論理的に思考・判断したり、表現したりする力が育成できるようにしました。

例9 数列 a_n は、 $a_1 = 1$ 、 $a_{n+1} = a_n + 2n$ と定められている。この数列の第10項 a_{10} の値を求めなさい。

数列 a_n は、 $a_1 = 1$ 、 $a_{n+1} = a_n + 2n$ と定められている。この数列の第10項 a_{10} の値を求めなさい。

数列 a_n は、 $a_1 = 1$ 、 $a_{n+1} = a_n + 2n$ と定められている。この数列の第10項 a_{10} の値を求めなさい。

→ p.124 ~ 125

例10 数列 a_n は、 $a_1 = 1$ 、 $a_{n+1} = a_n + 2n$ と定められている。この数列の第10項 a_{10} の値を求めなさい。

数列 a_n は、 $a_1 = 1$ 、 $a_{n+1} = a_n + 2n$ と定められている。この数列の第10項 a_{10} の値を求めなさい。

数列 a_n は、 $a_1 = 1$ 、 $a_{n+1} = a_n + 2n$ と定められている。この数列の第10項 a_{10} の値を求めなさい。

→ p.34

③ 学びに向かう力・人間性の育成

章の学習の最後に、「できるようになったこと」として、これまでの学習からどんなことができるようになったか、自分で判断できるようにしました。また、「さらに学んでみたいこと」を自分のことばで記入することで、もっと学んでみたいという意欲をもたせられるようにしました。

学習への意欲に結びつく、生徒の興味・関心をひく話題を取り上げ、「Tea Break」としてコラムを掲載しました。

巻末の「今の自分を知らう」では、SDGsを取り上げ、その中から自分たちができることが何かを考察し、生活にいかに関与できるかを実感できるようにしました。

→ p.38

1章「式の計算」を学んで

できるようになったこと

単項式と多項式の乗法・除法の計算ができる。

2年までに学んだ式や計算と同じように考えることで、式の展開や因数分解の公式を導くことができる。

数や図形の性質について見た問題を、式の展開や因数分解を使って解決することができる。

さらに学んでみたいこと

これからもっと学んでみたいことや、疑問に思ったことを書いてみよう。

ヒポクラテスの月

紀元前5世紀、古代ギリシャにヒポクラテスという数学者がいました。このヒポクラテスの月という発見をしています。

右の図のように、直角三角形ABCの3辺をそれぞれ直径とする3つの半円をかきます。ヒポクラテスの月、この図から、

(アの面積) + (イの面積) = (直角三角形ABCの面積)

という関係が成り立つことに気がつきました。この図は「ヒポクラテスの月」と呼ばれています。

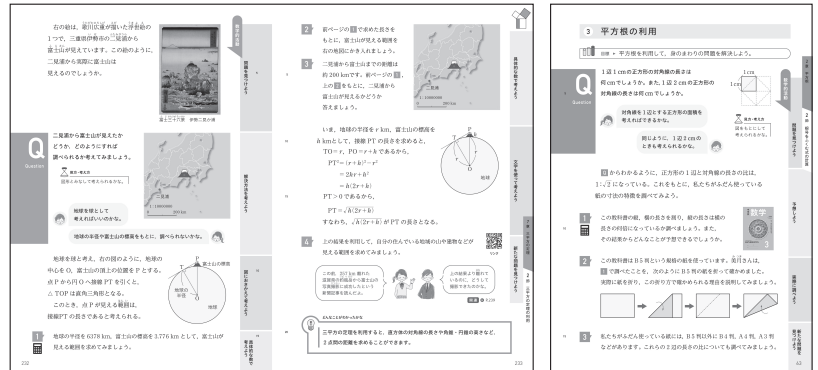
ヒポクラテスの月で、上の関係が成り立つことを証明してみましょう。

→ p.224

3 数学的活動を通じた学習をするために

「数学的活動のページ」では、「算数・数学の学習過程のイメージ」を具現化し、1つの課題に対する問題発見から解決までの過程が見えるよう、ページの右側に、いま、どのような過程で学習しているかが明確になるように示しました。さらに、サイクルが1周だけではなく、2周、3周、…と続いていくことで数学的活動が充実できることを示すために、新たな問題を見つたり、疑問を考えたりすることができるようにしました。

また、1つの課題だけでなく、本文の展開も、自分たちで見つけた課題「次の課題へ！」から「目標」を発見し、学習を進めて「どんなことがわかったかな」でまとめ、また新たな「次の課題へ！」とつながっていくような展開にすることで、学習全体が数学的活動として展開できるような配列にしました。



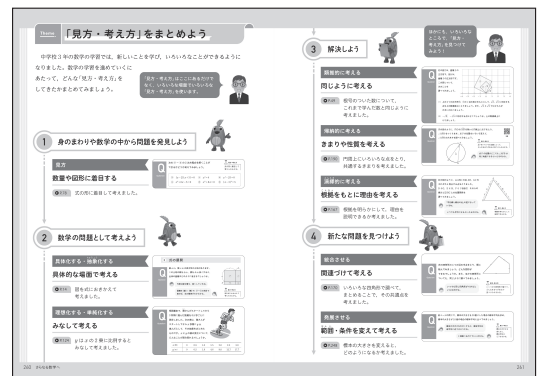
→ p.232 ~ 233

→ p.63

4 見方・考え方を働かせるために

導入問題である「Q」では、問題に対してどのような見方・考え方をしていくのかを側注として明示することで、着実にさまざまな見方・考え方ができるようになっていき、その他の数学や社会の問題においても、見方・考え方を働かせることができるようにしました。

また、巻末ではこれまでの見方・考え方をまとめた『「見方・考え方を働かせるために」』を掲載することで、見方・考え方にはいろいろな観点があることが明確になり、より深い理解につなげることができるようにしました。



→ p.260 ~ 261

5 さまざまな課題に対応するために

①小中高連携

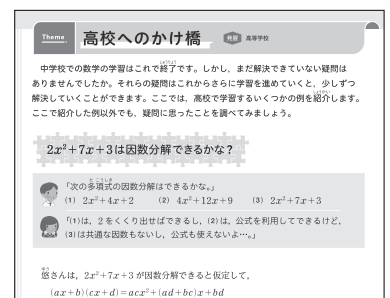
各領域ごとに「ふりかえり」のページを挿入し、前学年までにどんなことを学んできたかふりかえることで、スムーズにその学年の学習に入っていただけるようにしました。本文中でも、適宜「ふりかえり」の側注やQRを設定しました。また、「Tea Break」や章末の「数学へのいざない」、「深めよう」、巻末の「疑問を考えよう」、「高校へのかけ橋」では、上位学年の内容にもスムーズに触れられるようにしました。



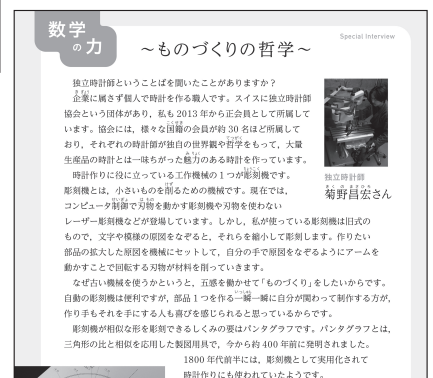
→ p.8

②キャリア教育

キャリア教育の一環として、裏見返しに「数学の力」、章末に「数学へのいざない」のコラムを掲載することで、数学が身のまわりのさまざまな場面に関連していることを実感し、学びに向かう意欲を喚起することができるようにしました。



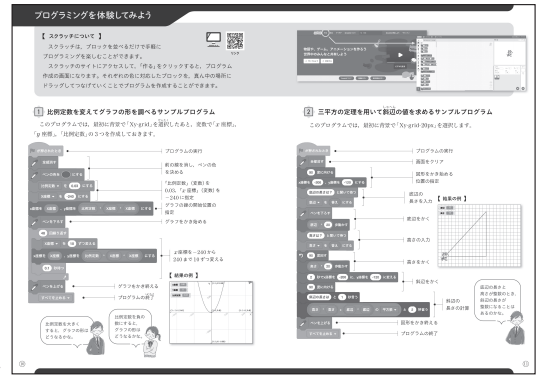
→ p.282



→裏見返し

③プログラミング教育

裏見返しに「プログラミングを体験してみよう」のページを設定することで、論理的な思考の大切さやICT活用の重要性に気づくことができるようにしました。



→裏見返し

④SDGs

持続可能な開発目標（SDGs）に触れることで、国際的な課題に取り組むことができるよう、パフォーマンス課題として、「今の自分を知ろう」を設定しました。学習の最後にルーブリックによる自己評価表を掲載しており、1年間の学習を総括できるように配慮しました。



→ p.262 ~ 265

観点別特色一覧

教育基本法の遵守	・教育基本法の趣旨を十分に反映した編集をしました。
学習指導要領の遵守	・学習指導要領に記載された内容をすべて網羅し、生徒がより理解しやすいように配慮した編集をしました。
知識・技能の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・数学的活動を通して学習を進めることで、知識・技能を教え込むのではなく、生徒自らが率先して学びに取り組み、自然に知識を身につけ、さらに身についた学習内容を確認できるように、練習問題を配置しました。 ・生徒がつまづきやすい内容を扱う際は、段階的に理解できるようにしたり、「QRコンテンツ」でいいいな説明を加えたりして、すべての生徒が無理なく知識・技能を身につけられるようにしました。 ・すべての節に「確かめよう」を設け、基本的な知識・技能を本文の対応する箇所に戻って確認できるようにしました。
思考力・判断力・表現力の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・「Q」に数学的な見方・考え方の例を示し、問題解決に向けて見通しを立てることにより、筋道を立てて論理的に考察できるようにしました。 ・「数学的活動」のページ、「説明する力をつけよう」では、生徒の話し合いを通して、思考力・判断力・表現力を育成できるようにしました。 ・巻末の「表現する力を身につけよう」では、レポートの作成から発表までのポイントや例を提示し、表現力やコミュニケーション能力を高める活動ができるようにしました。
学びに向かう力の育成	・章末の「できるようになったこと・さらに学んでみたいこと」では自己評価を行い、もっと学んでみたいという意欲を引き出す構成にしました。さらに、「数学へのいざない」では、数学に関するさまざまな話題を掲載し、生徒の興味・関心を引き出せるようにしました。
主体的・対話的で深い学びの実現	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が主体的に数学の学びに取り組めるよう、導入や各題材において、身のまわりや数学の学習の中で疑問に思うことを取り上げ、それを解決したいという気持ちが生まれるようにしました。「Q」においては、会話を通して問題解決への見通しを立てられるようにしました。 ・「説明する力をつけよう」では、他者に自分の考えを伝えるためには何が必要なのかを、生徒どうしの会話を通して考え、主体的・対話的で深い学びが実現できるようにしました。
見方・考え方の活用	<ul style="list-style-type: none"> ・「Q」において、問題解決に向けて「数学的な見方・考え方」の一例を提示し、今後の学習や生活の中での問題解決に応用できるようにしました。 ・巻末の『「見方・考え方」をまとめよう』では、これまでの学習で身につけた代表的な8つの「見方・考え方」を問題解決に向けた思考の流れとともに整理しました。これにより、今後の学習や生活にどのような観点で「見方・考え方」を働かせることができるかを明確にしました。
学びの接続・系統・連続性	・「身のまわりから問題を発見し、問題を解決していく中で新たな問題を発見していく」という学習の流れを大切に、学びの連続性を図り、上位学年の学習へとつなげていけるようにしました。
組織・配列・分量	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の思考の流れを大切に、生徒自身の疑問で学習をつないでいくことで、連続的で系統性のある学習の流れにしました。 ・適切な内容・分量の問題を配置しました。また、生徒の興味・関心に応じて、家庭学習で扱える内容を設定しました。

評価	・章末の「できるようになったこと」で、自己評価できるようにしました。また、「今の自分を知らう」はパフォーマンス評価として設定しており、ループリックによる自己評価を掲載しました。
ICT への取り組み	・適宜、基礎的・基本的な内容の習熟や、活動・思考の補助になるような「QR コンテンツ」を用意し、タブレット等で活用できるようにしました。 ・プログラミング的思考を身につけるため、裏返しに「プログラミングを体験してみよう」を設定しました。
ユニバーサルデザインへの取り組み	・UD フォントを使用することで、これまで以上に読みやすく、すべての生徒が理解しやすい文字になるように配慮しました。 ・文章を分節改行にすることで、誰もが読み取りやすく、問題解決や思考に重点をおけるようにしました。 ・カラーユニバーサルの観点を取り入れ、目に優しく判別のしやすい色使いをすることで、見やすく使いやすい紙面づくりに配慮しました。
人権への配慮	・ジェンダーや人権に対し、差別を助長することがないように、男女のイメージが固定化しないようなイラストを使用したり、人種を問わないイラストを使用するなど配慮しました。
印刷・用紙・製本	・本文用紙は、紙質を保ちながら軽量化を図るとともに、自然な色合いで光の反射や裏写りの少ない教科書用紙を用いました。また、用紙やインクは環境に配慮したものを採用しました。

2 対照表

図書の構成・内容	学習指導要領の内容	該当箇所	配当時数
1章 式の計算	A(2) ア(ア) A(2) ア(イ) A(2) イ(ア) A(2) イ(イ)	9～13 ページ 14～20 ページ, 23～29 ページ 14～20 ページ, 23～29 ページ 32～37 ページ, 42 ページ	21
2章 平方根	A(1) ア(ア) A(1) ア(イ) A(1) ア(ウ) A(1) イ(ア) A(1) イ(イ) 内容の取扱い(1)	43～52 ページ 54～62 ページ 63～64 ページ 54～62 ページ 63～64 ページ, 71 ページ, 72 ページ 47 ページ, 58 ページ	18
3章 2次方程式	A(3) ア(ア) A(3) ア(イ) A(3) ア(ウ) A(3) イ(ア) A(3) イ(イ) 内容の取扱い(2) 内容の取扱い(3)	73～77 ページ 78～85 ページ 86～89 ページ 78～89 ページ 91～93 ページ 73～93 ページ 73～93 ページ	19
4章 関数 $y=ax^2$	C(1) ア(ア) C(1) ア(イ) C(1) ア(ウ) C(1) イ(ア) C(1) イ(イ)	101～121 ページ 122～127 ページ 129～132 ページ 101～121 ページ 122～127 ページ, 137～139 ページ	19
5章 相似な図形	B(1) ア(ア) B(1) ア(イ) B(1) イ(ア) B(1) イ(イ) B(1) イ(ウ) 内容の取扱い(1)	141～154 ページ 173～180 ページ 150～154 ページ, 186 ページ 160～171 ページ 155～156 ページ 157～158 ページ	25
6章 円	B(2) ア(ア) B(2) イ(ア) B(2) イ(イ) 内容の取扱い(4)	187～197 ページ 190～194 ページ 201～207 ページ 198～199 ページ	15
7章 三平方の定理	B(3) ア(ア) B(3) イ(ア) B(3) イ(イ)	213～220 ページ 216～217 ページ 222～233 ページ, 239 ページ	14
8章 標本調査	D(1) ア(ア) D(1) ア(イ) D(1) イ(ア) D(1) イ(イ)	241～244 ページ 245～249 ページ, 256～257 ページ 250～251 ページ, 258 ページ 247～251 ページ	9

編 修 趣 意 書

(発展的な学習内容の記述)

受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
105 - 29	中学校	数学	数学	3
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教 科 書 名		
11 学図	数学 011-92	中学校数学 3		

ページ	記述	類型	関連する学習指導要領の内容や内容の取り扱いに示す事項	ページ数
62	乗法公式を使った分母の有理化	1	A(1)イ(ア) 既に学習した計算の方法と関連付けて、数の平方根を含む式の計算の方法を考察し表現すること。	0.5
99	2次方程式のおもしろい解き方	2	A(2)イ(ア) 因数分解や平方根の考えを基にして、二次方程式を解く方法を考察し表現すること。	1
114	逆関数	1	C(1)イ(ア) 関数 $y=ax^2$ として捉えられる二つの数量について、変化や対応の特徴を見だし、表、式、グラフを相互に関連付けて考察し表現すること。	1
120	瞬間の速さ	1	C(1)イ(イ) 関数 $y=ax^2$ を用いて具体的な事象を捉え考察し表現すること。	0.25
204	方べきの定理	1	B(2)イ(イ) 円周角と中心角の関係を具体的な場面で活用すること。	0.25
208	内接円	1	B(2)イ(イ) 円周角と中心角の関係を具体的な場面で活用すること。	0.5
212	動かして考えよう	1	B(2)イ(イ) 円周角と中心角の関係を具体的な場面で活用すること。	1
272 ~ 273	放物線はみな相似?	2	B(1)イ(ウ) 相似な図形の性質を具体的な場面で活用すること。	2
282 ~ 283	高校へのかけ橋	1	A(2)イ(ア) 既に学習した計算の方法と関連付けて、式の展開や因数分解をする方法を考察し表現すること。 C(1)イ(ア) 関数 $y=ax^2$ として捉えられる二つの数量について、変化や対応の特徴を見だし、表、式、グラフを相互に関連付けて考察し表現すること。	2
合計				8.5

(「類型」欄の分類について)

- 1…学習指導要領上、隣接した後の学年等の学習内容（隣接した学年等以外の学習内容であっても、当該学年等の学習内容と直接的な系統性があるものを含む）とされている内容
- 2…学習指導要領上、どの学年等でも扱うこととされていない内容